

第8期静岡県森林県民円卓会議報告書

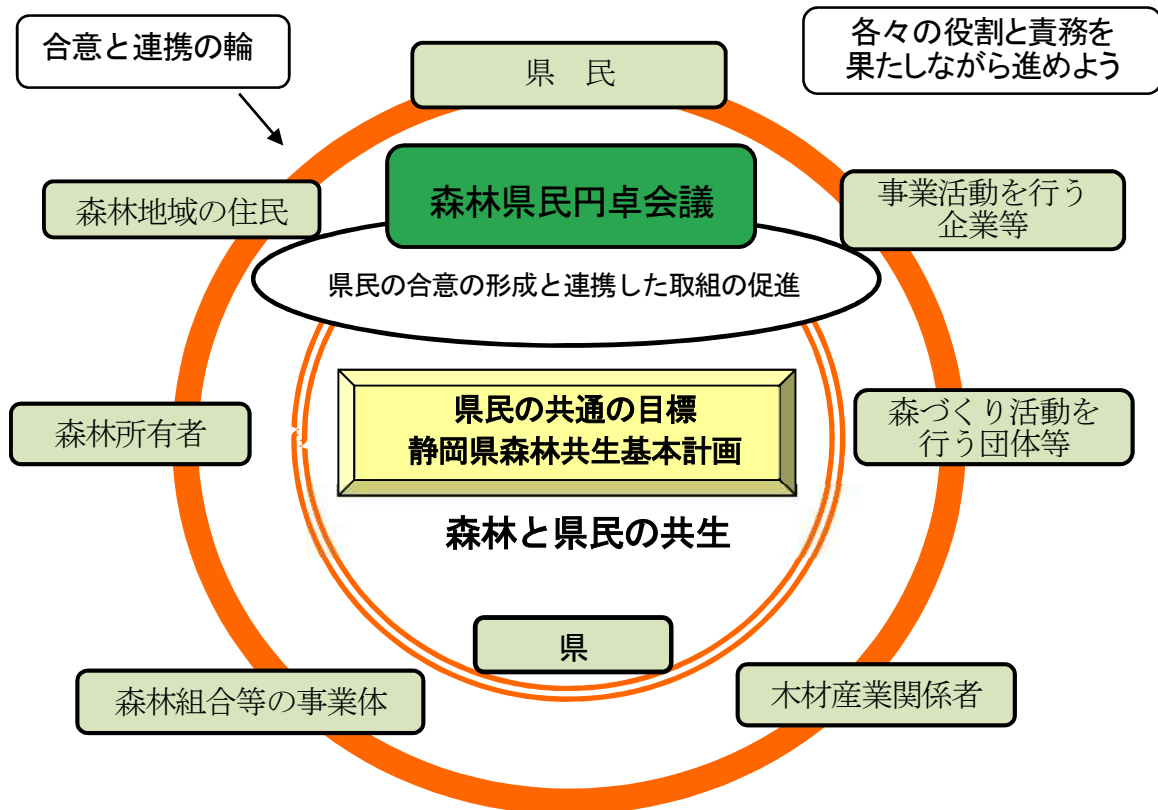
(令和2年7月～令和4年6月)



静岡県

森林県民円卓会議

○森林との共生について、一部の人間だけに任せるのではなく、県民自身が、地域の森林の将来の姿や、それを実現するための各人の関わり方などを話し合い、合意形成を図るため、「静岡県森林と県民の共生に関する条例」第10条に基づき、森林県民円卓会議を設置します。



静岡県森林と県民の共生に関する条例

(森林県民円卓会議の設置)

第10条 県は、県民の森林との共生に関する合意の形成及び連携した取組を促進するため、森林県民円卓会議を置く。

2 森林県民円卓会議は、次に掲げる事務を行う。

- (1) 地域の特性に応じた森林との共生に関する事項について、地域の住民等の意見を収集すること。
- (2) 前号に規定する地域の住民等の意見に基づく地域の森林に関する課題及び提案について協議すること。
- (3) 前号の規定による協議の結果を森林との共生に関する基本的な方針としてとりまとめること。
- (4) 前号に規定する基本的な方針について、広く情報を発信すること。

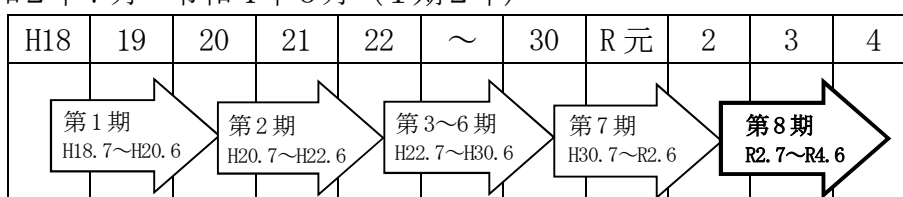
第8期森林県民円卓会議

1 ねらい

- ・森林共生白書等を活用し、「森林との共生」（森林を守り、育て、活かす）に関する県内の取組状況を共有する。
- ・参加者各人のネットワークを活かした各地域の先駆的な取組を持ち寄り、森林・林業に関する課題や県民の行動に係る解決策について、検討・提案を行う。
- ・議論を通じて、地域の森林について自ら考える意識の醸成を図る。

2 期間

- ・令和2年7月～令和4年6月（1期2年）



3 運営方法

- ・条例第10条に基づき、伊豆、富士、静岡及び天竜の4地域に、「運営委員」（知事が委嘱）と「県民委員」（参加者）で構成する、森林県民円卓会議を設置する。
- ・「森林との共生」（地域の森林を守り、育て、活かす）に関し、地域ごとに独自のテーマを設定して、課題や解決策、将来像などについて幅広く議論する。
- ・議論した結果は、取りまとめて、インターネット等を通じ情報発信する。

4 運営委員

担当地域名	氏名
伊豆	斉藤 大輔
富士	井戸 直樹
静岡	今永 正文
天竜	石黒 信子
全県	小嶋 睦雄

5 第8期森林県民円卓会議開催概要

地域	開催日	取組内容	参加人数
伊豆	令和3年3月21日	テーマ：伊豆の森の将来を語る (1)ディスカッション	22人
	令和4年6月19日	テーマ：伊豆の森の将来を語る (1)間伐体験 (2)ディスカッション	21人
富士	令和2年度	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止	-人
	令和3年10月31日	テーマ：富士地域における森林・自然との共生 (1) <small>そまびと</small> 杣人体験（間伐、木工体験） (2) ディスカッション	34人
静岡	令和2年度	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止	-人
	令和3年10月30日	テーマ：木と遊び・木と暮らす「木育をはじめよう」 (1) 木育講話「しぜんはあそびのたからばこ」 (2) ワークショップ	348人
天竜	令和3年3月6日	テーマ：放置竹林の解消と竹林の有効活用 (1) 基調講演「竹はどんな植物か」 (2) 意見交換	18人
	令和3年11月23日	テーマ：「森林認証及び認証材の普及啓発について」考える (1) 森林認証制度を知ってもらうための E-MTB（電動アシスト付きマウンテンバイク）ツアー (2) 意見交換	19人
計	6回開催		462人

伊豆地域森林県民円卓会議の活動報告

開催日時	令和3年3月21日（日）午前9時～午後0時30分
会場	静岡県きのこ総合センター（伊豆市修善寺 4279-5）
テーマ	伊豆の森の将来を語る
参加人数	22人
内容	<p>○ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林県民円卓会議の趣旨説明 ・伊豆の魅力紹介 ・伊豆の可能性について ・「森林との共生（地域の森林を守り、育て、活かす）」をテーマに伊豆の森林の活用方法について意見交換
意見件数	9件
発言者数	9人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ・森林資源、農産物の資源をビジネスに生かすためにも私（学生）はもっと知識を増やし勉強していかないといけない。 ・林業に携わっている者として、若者の意見に刺激を受けた。好きな山仕事をやっていく上で、気持ちを新たに組みたい。若い方には伊豆の魅力を発信して行って欲しい。 ・行政目線では気づかないところでいろんな発想を聞いた。伊豆市は森林レクリエーション協会の支部長をしている。なかなかアイデアが出てこない中で、今日の意見は良い勉強になった。業務に生かせればと思う。 ・私（学生）の周りにはきこり（伐採業者）の存在を知らない友人が多い。 ・人と自然のこれまでの関係の成果として、現在の産物が生まれたことに気づいた。 ・森林との様々な接し方があったことが分かった。考え方を見つめ直したい。 ・三島出身だが、学生の意見を聞いて伊豆は宝箱だと感じた。普段見ている景色や物が実は価値ある財産なのだと気づいた。宝物を活かすことを考えていきたい。 ・今日出た意見を地元の方に聞いてもらい、意見交換したかった。森林円卓会議の趣旨としては、いろんな意見を反映して地域の森林資源をどう受け継いで活用していくかを考える場。活かし方のアイデアは多く出たので、次回の円卓会議で地元の方・林業従事者との意見交換の場を期待したい。 ・皆さんが伊豆の魅力として感じているものは、これまでの人と自然の関係が作ってきた産物であるので、これからも魅力を感じてもらうには、地域で農林漁業を守っている方の役割が大切。そんな目線でも伊豆を見て欲しい。



開催日時	令和4年6月19日（日）午前9時～午後3時30分
会場	mata-ne 村（伊豆市八幡 1053）
テーマ	伊豆の森の将来を語る
参加人数	21人
内容	<p>○体験プログラム 2グループに分かれ、林業経営体の指導の下、一般参加者がノコギリで伐倒、玉切り、人力による搬出を体験</p> <p>○ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林県民円卓会議の趣旨説明 ・伊豆の魅力紹介 ・伊豆の可能性について ・「伊豆の森の将来を語る」をテーマに伊豆の森林の活用方法について意見交換、グループによる提案
意見件数	2件
発言者数	2グループ
意見概要	<p>1グループ「伊豆の森Life」 伊豆の森林の中でコワーキングをしながら自然の近くで生活するライフスタイルを提案。平日と休日の2パターンの生活について、24時間の時間軸でモデルを作成し、提案した。</p> <p>2グループ「伊豆のポテンシャル」 伊豆の森林は多様な魅力があり、多くのアクティビティを提供してくれ、都心部にも近いとため、回数を重ねて昼夜時間を問わず多くの方が自然を楽しむことができる。</p> <p>北欧にある国では、国民が等しく森林の恩恵を享受できる「森林享受権」があり、誰もが森林に入り森林の恩恵を受けている。自由の裏にはしっかりと森林との付き合い方のルールが存在し、人々はそれを遵守しているという。</p> <p>伊豆の森で一定の講習等を受け、ライセンスを獲得すれば、月額料金を支払いあらかじめ登録されたアクティビティ等を利用できると良い。</p>



富士地域森林県民円卓会議の活動報告

開催日時	令和3年10月31日（日）午後0時30分～午後2時40分
会場	静岡県森森林組合連合会富士事業所（富士市大淵6978-1）
テーマ	富士地域における森林・自然との共生
参加人数	34人
内容	<p>○体験プログラム</p> <p><small>そまびと</small> 杣人体験（間伐体験、木工体験）</p> <p>○ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林県民円卓会議の趣旨説明 ・次期森林共生基本計画の説明 ・意見交換
意見件数	9件
発言者数	9人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の体験を、富士・富士宮の地元の木を使って、将来、家を建てたり、「FUJI HINOKI MADE」の家具を買ってもらうきっかけとしてほしい。 ・仕事の原点にある「遊び」を実際に子供が体験することで、「遊び」の延長線上に木こりの仕事や家具を作る仕事があると学ぶことができた。 ・将来の仕事を考えるうえで「林業」に興味があったので参加した。豪快な仕事と思っていたが、実際に体験してみて繊細な仕事、素敵な仕事だと思った。 ・いろいろな人の手がかわって、豊かな自然が守られているということに初めて意識した。最近は自然災害も多く、森林のことが気になっていたもので勉強になった。 ・日本の森林率は世界でも高く、木材という資源があるということを知った。この木材をプラスチックに代わるものとして、また、SDGsの流れに乗って、いかに消費していくか、ということを考えていけばよいのではないか。 ・林業は、機械が入っていけない等、人の手がかかり、コストの面などで海外には負けてしまうのかな、と感じた。多くの課題があると思うが、行政や民間が協力しながら、このような会議を通じて、もっと活性化してほしい。 ・急傾斜地の買収や太陽光パネルの設置など危機感を感じている。森林や林業の課題を、他人事ではなく自分のこととして、小さなところから考えていきたい。

- 山を見ると、動物との共生も大切と感じる。食害がひどく、駆除もしているが被害が減らない。何とか共生はできないか、と考えさせられる。
- 柚人として、日々、元気な森づくりを心掛けている。疑問に思ったことがあれば、私たちに聞いてもらい、少しでも山のことを知ってほしい。



静岡地域森林県民円卓会議の活動報告

開催日時	令和3年10月30日(土) 午前10時～午後3時30分
会場	ターントクルこども館(焼津市栄町5-1-1)
テーマ	木と遊び・木と暮らす「木育をはじめよう」
参加人数	348人
内容	<p>○木育講話「しぜんはあそびのたからばこ」 午前・午後計2回 常葉短大保育科 遠藤知里准教授</p> <p>○体験プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産材「木のたまご」色付け・装飾 ・常葉短大生による森の体験プログラム(葉っぱや木の実のアクティビティ) ・県産材積木レングで遊ぶコーナーやモルック体験(北欧の木の遊び) ・県産材アルブホルム展示や木の実・コンテナ苗等の森を感じるコーナーの設置 <p>○ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今永委員による県施策説明及び県民からの意見聴取
意見件数	48件(アンケートによる回答:親子)
発言者数	3人(遠藤准教授講話:一般県民)
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ・木育は、山を守ること、森林を知ることができる。 ・熱海の土砂崩れのようなことが起きないように、安全に自然と共存できるようにしていきたい。 ・住宅に地元の木材を使う助成事業は良い取組だと思う。 ・木と触れ合うことで心身の成長につながると思う。 ・木の優しいぬくもりが感じられてよかった。 ・幼い頃から身近に木があることで、自然を考えるきっかけになる。 ・子どもがとても楽しんでいたので嬉しく、親子で参加できて良かった。



天竜地域森林県民円卓会議の活動報告

開催日時	令和3年3月6日（土）午後2時～午後4時
会場	湖西市健康福祉センターおぼと3階研修室（湖西市古見1044）
テーマ	放置竹林の解消と竹材の有効活用
参加人数	18人
内容	<p>○基調講演 基調講演「竹はどんな植物か」竹林の管理と竹の活用を考える 柏木治次氏（㈱エコパレ代表取締役、元富士竹類植物園研究主任）</p> <p>○取組事例紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「森の力再生事業」と西部農林管内における竹林の整備 森下吉三氏（引佐町森林組合参事兼理事） ・「ボーイスカウトの野外活動などボランティアを募り整備した竹林」寺田智成氏（ボーイスカウト浜松15団ベンチャー隊隊長） ・「森林環境譲与税」を財源とする「森林保護整備事業」（湖西市版「森の力再生事業」）の開始 湖西市産業振興課 <p>○ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林県民円卓会議の趣旨説明 ・意見交換
意見件数	18件
発言者数	18人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地主がわからない竹林や畑が出てくる。 ・所有権が強いが何とかできる制度を作ってもらいたい。 ・市の事業なら3年くらい維持できる。（県事業の10年管理義務期間は、期間が長すぎてきつい。） ・竹林が電線に掛かっている。 ・土地の所有者、森林・竹林の整備者がだれかわからないためその情報がわかると良い。 ・広葉樹が大きくなりすぎ下草がなくなって雨が怖いなど。 <p>地権者が不明、地権者の理解が乏しい、地権者から協力が得られない等、地権者に起因する課題が多く挙げられた。</p>



開催日時	令和3年11月23日(火) 午前8時～午後2時
会場	掛川市森林組合(掛川市大和田320-1)
テーマ	「森林認証及び認証材の普及啓発について」考える
参加人数	19人
内容	<p>○体験プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林認証制度を知ってもらうためのE-MTB ツアー <p>○ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換
意見件数	12件
発言者数	12人
意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ・森林認証制度の周知が今以上に必要。特にこれからを担う子供に周知すべき。 ・子供が利用する施設を森林認証材で建てることによって、周知が広がる。 ・材を使う業者への補助が必要。 ・森林認証材の家を建てたら税金面で優遇があると良い。 ・認証マークに記載されている「責任ある森林管理のマーク」は一般には分かりづらい、「森をまもるマーク」など子供でも分かるようにしたほうが良い。 ・山で働く人の誇りとなるような制度にすべき。



お問い合わせ先

○伊豆地域森林県民円卓会議事務局

賀茂農林事務所 森林整備課

〒415-0016 下田市中 531-1

☎0558(24)2082

東部農林事務所 森林整備課

〒410-0055 沼津市高島本町 1-3

☎055(920)2170

○富土地域森林県民円卓会議事務局

東部農林事務所 森林整備課

〒410-0055 沼津市高島本町 1-3

☎055(920)2170

富士農林事務所 森林整備課

〒416-0906 富士市本市場 441-1

☎0545(65)2202

○静岡地域森林県民円卓会議事務局

中部農林事務所 森林整備課

〒422-8031 静岡市駿河区有明町 2-20

☎054(286)9066

志太榛原農林事務所 森林整備課

〒426-0075 藤枝市瀬戸新屋 362-1

☎054(644)9243

○天竜地域森林県民円卓会議事務局

中遠農林事務所 森林整備課

〒438-8558 磐田市見付 3599 の 4

☎0538(37)2301

西部農林事務所 森林整備課

〒430-0929 浜松市中区中央 1 丁目 12-1

☎053(458)7234

○森林県民円卓会議の全体に関すること

森林計画課

〒420-8601 静岡市葵区追手町 9-6

☎054(221)2666



環境・経済・社会が調和した
森林づくりを進めます。



ふじのくに
森林の都
しずおか